

漁業の実情や廃棄網の処理などの話をしてもらえれば、もう少し現実感があるかと思う。検討会に出てもらえるとよいのだが。

- 5) 網の破片の捉え方が、漁業者と我々とでかなり違う。我々は生活系ごみを中心に考えるので、重量ベースだと数十グラムという単位であるが、漁網というのは1反(100m×150m)という単位で、漁業者にとってはそれが一切れという捉え方である。漁業者にとっては破片でも、我々にとっては巨大なごみである。発生抑制を考えるときには、このようなごみの認識の違いなども含めなければならない難しさもある。
- 6) カニは底刺し網を使って漁をするが、カニを傷つけると商品価値がなくなることから、網を切り取ってカニを網からはずしている。これは韓国の生分解性の漁具を開発している研究者の話である。また、ヌタウナギ用筒でも同様に、非常に単価が安いので、何百個、何千個流出しても何も気にかけていないそうである。このような値段の捉え方など、投棄に対しての意識の違いというのがあるので、発生抑制は難しい部分もある。
→ [事務局] 漁業者にとってはかけらでも、我々にとっては海岸の大きなごみという、この意識のギャップを埋める必要があるのだと思う。そのためにも普及啓発が非常に大事であるので、この資料にも盛り込むかどうか検討したい。

(2) 今後の課題（原因究明調査：費用負担の明確化について）

- 1) 政策を実行するには費用負担の話が必ず出てくるので、誰が負担するかという点も、今後の課題に含めるべきではないか。実施するところと最終的な費用負担の帰着がどこになるかというのは、別の話になる。費用負担の責任の明確化は今回はされていないと思うので、今後の課題にしてほしい。
- 2) 漁具については、ERPの考え方で進めるべきと考える。
- 3) 流木の対策経費の比較については、社会的に見た場合にどの対策が安価かということはわかったが、主体が違えば全く別の認識となる。その場合、効果的な政策運営ができなくなる可能性も出てくるので、やはり責任主体はどこかという議論をしたほうが良い。
- 4) 生活系の対策経費の比較についても同様で、ポイ捨てや不適切な廃棄が原因で発生したごみはやがて海岸に流れてくる。それらを処理するための経費は、現在海岸を持っている自治体の負担になっているので、今後はより発生源にさかのぼるという考え方も必要になってくるのではないか。その点からは、生活系ごみの発生源はどこか、例えば流域から来るとしても、どの自治体から来るか、というところまで本来は見るべきではないか。今後は負担の方法も考える必要があるので、課題の中に含めてほしい。
→ [事務局] 今回はガイドラインの手前の素案という形でまとめているが、実施の際は財務的な負担をどこに持っていくかが、非常に重要になってくる。このためには、今回対象としている流木や漁具は関係省庁間の協力関係がなければ、費用負担の検討や仕組みをつくるのは難しいと考えている。今年度は、物理責任ということで素案をまとめたので、残っている費用負担の部分は課題として整理したい。

(3) 今後の課題（国外流出調査）

- 1) シミュレーションの結果はそれなりに正しいと思うが、今回の調査で得られた結果から、今後どうするのかという話が次にある。例えば、ハワイの北にごみが集積している結果があるが、実際に海に出ると1時間、2時間船に乗って見ていると、少し散らばっているところが確認できるレベルなので、それらを回収するというのは非現実的である。ではそのまま放置してよいのか、対策がないのが現状であるので、影響と状況把握の部分について

の課題の整理が必要である。何が足りないのか、実態把握は本当にされているのか、全体的に広がっているのはどのように把握したら良いのかということについて、今後検討するというような記載が必要ではないか。

- 2) 太平洋のごみのソースは日本であることはおそらく間違いではない。幸か不幸か、ロシアなどから出てくるものは、日本が防波堤になっているので、なかなか太平洋に出ていかない。そうすると、太平洋のごみは日本とアメリカが本気で対策をとらないと、おそらく削減されないので、今回の調査の次のステップは何かということを検討し、そのことを追記してもらえると良い。

→ [事務局] 実態の把握というのは次の課題だと認識している。まずは、日本沿岸から流出するごみの量がどの程度であるのかを押さえることが、対策を検討する上で重要だと考えている。その手法として、現地調査によって推定するよりも、現時点ではシミュレーションが現実的な推定手法ではないかと考えている。特に、ほぼ沈んでいるごみに関しては、黒潮続流に沿って北太平洋に流出していく経路がある程度明確であるので、あとは日本沿岸のごみの量と種類の分布が数値として与えられれば、定量的な議論ができるようになるかと思う。

- 3) 自身もハワイから東京までの航路で、表層のごみをプランクトンネットを使って回収したことがある。ごみは入るが、それはごみの島と言われている状況ではなく、網の中に破片が数個入る程度であった。普通の公海にはごみは極めて少ない。一方で巨大な網がミッドウェイ諸島に流れ着いているのも事実であり、また日本周辺の海底にもごみのたまり場があるのは事実である。そのギャップの捉え方が難しい。

以上

リサイクル適正の表示：紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔A ランク〕のみを用いて作製しています。

平成 22 年度 環境省請負業務

平成 22 年度
漂流・漂着ゴミ原因究明・国外流出調査業務
報告書
—資料編—

平成 23 年 3 月

日本エヌ・ユー・エス株式会社

目 次

1. 漁網	資料-1
1.1 北海道豊富町	資料-1
1.2 福井県坂井市周辺	資料-12
2. 流木	資料-23
2.1 北海道豊富町	資料-23
2.2 山形県酒田市周辺	資料-41
3. 漂着場所におけるヒアリング結果（漁網）	資料-59
3.1 北海道豊富町	資料-59
3.2 福井県坂井市周辺	資料-65
4. 漂着場所におけるヒアリング結果（流木）	資料-73
4.1 北海道豊富町	資料-73
4.2 山形県酒田市周辺	資料-82
5. 漂着場所におけるヒアリング結果（生活系ごみ）	資料-98
5.1 北海道	資料-98
5.2 山形県	資料-102
5.3 福井県	資料-109
6. 河道内における捕捉施設	資料-113
6.1 神奈川県熱海市（糸川）	資料-114
6.2 東京都大田区（呑川）	資料-116
6.3 愛知県名古屋市（堀川）	資料-119

1. 漁網

1.1 北海道豊富町

平成 22 年 10 月 15 日に北海道豊富町の海岸に漂着していた漁網を 25 検体採取した。採取した漁網のサンプルの分析結果を表 1.1-1 に、各サンプルの分析結果、漂着状況等を表 1.1-2 に示す。

表 1.1-1 漁網サンプルの分析結果（北海道豊富町）

整理 No.	サ プル No.	国内外 の区分	漁法	主な対象魚種 (推定)	漁具の部位 (推定)	主な判断基準					
						網の色	材質	糸の太さ	撚り	目合	結び方
1	39	国内	刺網(底)	ハタハタ他	網地	水色	ポリアミド	0.4mm	モノフィラ メント	30mm	蛙又
2	5	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	袖網または身網	深緑	ポリエチレン	2.2mm	3子撚	180mm	蛙又
3	6	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	身網	深緑	ポリエチレン	1.9mm	4子撚	60mm	蛙又
4	8	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	身網	深緑	ポリエチレン	4.0mm	3子撚	120mm	蛙又
5	10	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	袖網または身網	深緑	ポリエチレン	3.8mm	3子撚	180mm	蛙又
6	12	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	身網	深緑	ポリエチレン	2.5mm	3子撚	60mm	蛙又
7	17	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	袖網または身網	深緑	ポリエチレン	2.4mm	3打ち	180mm	蛙又
8	22	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	身網またはコッド・イント	深緑	ポリエチレン	2.3mm	3子撚	55mm	蛙又
9	26	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	身網	深緑	ポリエチレン	1.7mm	3子撚	56mm	蛙又
10	34	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	身網	深緑	ポリエチレン	1.8mm	3子撚	90mm	蛙又
11	37	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	身網	濃緑	ポリエチレン	3.2mm	3子撚	75mm	蛙又
12	20	海外(中国)	刺網(不明)	不明	網地	濃緑	ポリエチレン	1.3mm	3子撚	22mm	蛙又
13	24	海外(中国)	刺網(底)	タラ類、ホッケ他	網地	緑	ポリエチレン	0.7mm	マルチフィ ラメント	70mm	蛙又
14	30	海外(不明)	刺網(底)	アンコウ・カスベ他	網地	水色	ポリアミド	0.6mm	モノフィラ メント	212mm	蛙又
15	16	海外(不明)	刺網(底)	不明	網地	白	ポリアミド	0.3mm	モノフィラ メント	240mm	蛙又
16	32	海外(不明)	刺網(底)	タラ類、ホッケ他	網地	透明	ポリアミド	0.4mm	モノフィラ メント	94mm	蛙又
17	36	海外(不明)	刺網(底)	タラ類、ホッケ他	網地	水色	ポリアミド	0.3mm	モノフィラ メント	70mm	蛙又
18	35	海外(不明)	刺網(底:3枚網)	不明(カニの可能性)	網地	白	ポリアミド	0.2mm 0.5mm	マルチフィ ラメント	36mm 330mm	蛙又
19	27	海外(韓国)	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	袖網または身網	濃緑	ポリエチレン	2.4mm	3子撚	150mm	蛙又
20	29	海外(韓国)	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	身網	濃緑	ポリエチレン	1.5mm	3子撚	53mm	蛙又
21	11	海外(中国)	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	袖網または身網	濃緑	ポリエチレン	2.0mm	3子撚	280mm	蛙又
22	13	海外(中国)	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	身網	薄緑	ポリエチレン	0.9mm 2.0mm	3子撚	40mm 120mm	蛙又
23	21	海外(中国)	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	身網	薄緑	ポリエチレン	3.2mm	3子撚	90mm	蛙又
24	31	海外(不明)	底曳網(沖)	タラ類、ホッケ他	身網	濃緑	ポリエチレン	1.3mm	3子撚	90mm	蛙又
25	23	海外(不明)	底曳網(沖)	不明	不明	緑、白	ポリエチレン	1.8mm 2.0mm	3子撚	75mm	蛙又

表 1.1-2(1) 漁網サンプルの分析結果及び漂着状況（北海道豊富町）

整理 No.	サ ンプル No.	国内外 の区分	漁法	主な対象魚 種(推定)	漁具の部 位(推定)	漂着状況		
						遠景	近景	拡大
1	39	国内	刺網(底)	ハタハタ他	網地			
2	5	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホツ ケ他	袖網また は身網			
3	6	国内	底曳網(沖)	タラ類、ホツ ケ他	身網			